

「音楽Ⅰ」	教科	芸術	単位数	2単位
	学科、学年、組	環境科学・情報デザイン科Ⅰ学年5・6組		
使用教科書	「音楽Ⅰ Tutti Plus」(教育出版)			
副教材等	「New Recorder Library」(教育出版) 「Music Note」(啓隆社)			

1 科目のねらい(目標)

学習の到達目標	<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構成や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
---------	---

2 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、以下の観点についてそれぞれABCで評価し、各観点の割合を基に評定(5段階)で総括します。

評価の規準 A:十分満足できる、B:おおむね満足できる、C:努力を要する

評価の観点及び内容		観点の割合	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構成や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul>	35	実技テスト ペーパーテスト 授業プリント ノート ワークシート 授業観察
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</li> </ul>	35	実技テスト ペーパーテスト 授業プリント ノート ワークシート 授業観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>	30	授業プリント ノート ワークシート 授業観察

3 学習計画

学期	学習内容	学習のねらい
Ⅰ	歌唱 : 校歌、君に届くまで、日本歌曲、四季の歌 器楽 : 基本奏法、あの丘へ続く道、誰も知らない私の悩み、バロックハウダウ 楽典 : 音名 鑑賞 : グレゴリオ聖歌、アヴェヴェルムコルプス 音楽史 : 古代、中世、ルネサンス	<p>親しみやすいJ-popの曲、日本歌曲を歌い、日本語の抑揚や間、語感、歌詞としてのまとまりが旋律の流れやフレーズにどのように表され曲想を生み出しているかに関心をもち、曲に対する自己のイメージを豊かにしたり、他者の音楽表現に共感したりしながら歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>楽器の奏法を身に付けるとともに技能の習熟度に応じた楽曲の音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動の楽しさを味わう。</p> <p>キリスト教と結びついて発展してきた西洋音楽の源流を中世からルネサンスの音楽の鑑賞と文化的・歴史的背景の学習で辿り、その良さや美しさを自ら味わって聴く。</p> <p>様々な音楽に自ら積極的に関わり、音楽を幅広く様々な視点から捉えようとする態度を養う。</p>

2	<p>歌唱 : イタリア歌曲、ドイツ歌曲、英語の歌、フランスの歌、Oh happy day</p> <p>器楽 : ていんさぐぬ花、メヌエット、グリーンスリーブス、アヴェマリア</p> <p>楽典 : リズム、拍子、反復記号 リズムクラッピング: テーブル・ミュージックを楽しもう、リズム創作</p> <p>鑑賞 : 天使にラブソングを2、交響曲第9番</p> <p>音楽史: バロック、古典派</p>	<p>イタリア語、英語、ドイツ語の言葉の特性や曲に相応しい発声、アクセントや子音・母音の扱い、語感の違い、発音の特性と旋律やリズム、曲の構成などとの関わりに関心を持ち、言葉の抑揚や言語のもつ質感を捉えながら自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>他者との調和を意識したり、ヴォイス・アンサンブルの特徴を生かしたりしながら、自分たちのイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>身体のような部位を使って音色や構成を工夫しながら表したいイメージをもってテーブル・ミュージックをつくって演奏する。</p> <p>楽器の奏法を身に付けるとともに、技能の習熟度に応じた楽曲の音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動の楽しさを味わう。</p> <p>ベートーヴェンの交響曲第9番第一楽章を通して、オーケストラの響きや、ソナタ形式において主題が展開されたり再現されたりする面白さを味わいながら聴く。</p>
3	<p>歌唱 : フィンランディア讃歌、闘牛士の歌</p> <p>器楽 : 木星、いつも何度でも、翼をください</p> <p>楽典 : コード</p> <p>鑑賞 : オペラ「カルメン」、日本の音楽</p> <p>音楽史: ロマン派、近・現代</p>	<p>混声合唱の響きを味わいながら他者との調和を意識して歌うことや、曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされている事を理解しながら歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>楽器の奏法を身に付けるとともに技能の習熟度に応じた楽曲の音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動の楽しさを味わう。</p> <p>オペラやミュージカルなどの総合芸術において物語や音楽が関わり合いながらどのような表現上の効果をもたらしているか、音楽と他の文化が互いにどのように影響し合って発展してきたかを考える。</p>